

令和4年度 学校評価計画書（中間）

							石川県立志賀高等学校	
重点目標	具体的取組	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	中間評価	分析と改善	
1 学力の向上 魅力ある教材及び指導法の工夫等により、学ぶ意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	・授業の目標や流れを事前に示し、生徒が安心して授業に取り組むことのできる授業を実践し、生徒の学習意欲を高める。	授業改善により工夫を凝らした授業実践（ICTを活用等）が定着しつつあり、学習意欲が高まったと答える生徒の割合が96%である。	【努力指標】 学習意欲の向上を図るため、工夫を凝らした授業（見通しカード、ICT機器の活用、学びあい）を実践する。	「ICT機器の活用や、授業中の学び合いによって、学習意欲が高まった。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：75%以上～90%未満である。 C：60%以上～75%未満である。 D：60%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	A (90%)	学習意欲が高まったと答える生徒の割合は高いが、昨年比は減少している。高い数値に満足せず、相互授業参観等を通して、日常的に授業改善に取り組む。	
	・学習目標を明確にし、努力の手段や方法をわかりやすくすることで学習意欲喚起を図り、家庭学習時間を増やす。	学習意欲の高まりが家庭学習時間の増加につながり、家庭学習時間の平均が1時間以上であった生徒の割合は79%である。	【成果指標】 努力目標と手段方法の明確化により、家庭学習に自主的に取り組み、学習時間が増加する。	家庭学習時間調査の集計結果による、1日平均学習時間1時間以上の生徒の割合が A：80%以上である。 B：60%以上～80%未満である。 C：40%以上～60%未満である。 D：40%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	A (81%)	調査前週の休日及び試験前日の学習時間が多く、毎日1時間以上学習する生徒の割合は増加した。調査後の学習時間減少は大きい。授業改善により生徒の家庭学習時間増加に取り組む。	
2 進路の実現 進学意欲の高揚やキャリア教育を充実するとともに、個に応じた指導を充実させ、進路実現を図る。	① ・進路説明会、社会人講座や企業見学会等により、進学や就職に対する意欲や必要な態度を身につける。	説明会等が参考になった生徒が91%いたものの、年度当初においては自己の進路についての意識が低く、年度の後半になっても進路希望が未定のままである者が若干名いる。	【満足度指標】 生徒は進路説明会や各講座等を進路決定のために参考にしている。	「進路説明会、社会人講座、各種マナー講座や企業見学会等が早期の進路決定のために参考になった。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	A (93%)	昨年は中止となった事業も今年度は計画通りに行われ、高評価である。今後は更なる進路意識の向上を図る。	
	② ・保護者や関係機関と連携を深め、個に応じた進路指導の充実を図る。	基礎学力や理解力の違いがあるものの、88%の保護者が情報提供に満足され、適切な時期に適切な内容の進路情報が提供できていた。	【満足度指標】 保護者に進路について必要な情報が必要な時期に提供されている。	「学校が提供した個別の進路情報に対して満足している。」と答える保護者の割合が A：80%以上である。 B：70%以上～80%未満である。 C：60%以上～70%未満である。 D：60%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	A (85%)	個に応じた情報提供により高評価である。今後は更なる個に応じた適切な情報提供、進路行事を学年団と連携して行っていく。	
3 基本的生活習慣の確立 心の教育を実践するとともに、基本的生活習慣の確立や規範意識の高揚を図る。	① ・いじめアンケートを年3回実施するとともに、生徒全員に面談をする。	個人面談の継続した実施等により、いじめに対する学校の毅然とした取組に対して87%の生徒は理解している。	【満足度指標】 生徒が学校はいじめに対しての取組をしっかりとらえている。	「学校はいじめに対しての取組をしっかりとらえている。」と答える生徒の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	A (95%)	個人面談の継続やいじめに対する学校の毅然とした取り組みの結果、95%と高い評価である。引き続き継続して取り組んでいく。	
	② ・保護者と連携を図り、生徒自らも家庭でのスマートフォン等の使用のルールづくりに取り組む。	保護者と連携した結果、家庭生活でスマートフォン等の使用のルールが守られているとした保護者は52%であり、継続的に啓発していく。	【努力指標】 保護者が家庭内ルールづくりと子どもに遵守させることに努め、スマートフォン等の使用の規範意識を高める。	「家庭において、スマートフォン等の使用のルールが守られている。」と答える保護者の割合が A：60%以上である。 B：50%以上～60%未満である。 C：40%以上～50%未満である。 D：40%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	A (65%)	アンケートの結果を保護者に周知し、共通理解を持って指導したことで65%と高評価であった。今後も家庭内ルールの遵守の継続に向けて保護者・生徒会と連携していく。	
	③ ・毎日登校指導をするとともに、全教員、生徒会、PTAと連携した挨拶運動週間を設定する。 ・授業規律としての挨拶指導をする。	教職員の90%は生徒がしっかりと挨拶をしているととらえている。今年度も継続できるように、教職員が率先垂範して啓発普及に努める。	【成果指標】 登校や授業等において挨拶をしっかりとる生徒が増加する。	「生徒は挨拶がしっかりとれている。」と答える教職員の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	B (84%)	前年度評価より6ポイント下がったが、後期も教職員が率先垂範しつつ、生徒会と連携した挨拶運動週間等を設ける等、取り組みを強化する。	

令和4年度 学校評価計画書（中間）

							石川県立志賀高等学校	
重点目標	具体的取組	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	中間評価	分析と改善	
4	地域との連携 地域との連携や情報発信に努め、地域から愛され信頼される学校づくりを推進する。	④ ・日常的な教室の点検や保健委員による定期的な美化活動や環境衛生に努め、整理整頓の習慣化を図るために、机ロッカーすっきり週間を設定する。	「机、ロッカーすっきり週間」といった、期間を設けた取り組みでは、生徒の96%が整理整頓を心がけているものの、普段の学校生活においては、自主的・主体的に取り組めない生徒が多い。	【成果指標】 教室や身のまわりの整理整頓、健康で安全な生活を送る行動を自主的に実践する生徒が増加する。	毎週行っている教室の整理整頓点検の結果、満点だったクラス数が6クラス中で平均 A：3クラス以上である。 B：2クラスである。 C：1クラスである。 D：ない。	C Dは具体的な改善策を検討する。	B 整理整頓を実践していると答える生徒の割合は95%だが、点検結果が満点のクラスは平均2クラスに留まる。特に、満点に達したことがないクラスについて、担任との連携を強化する。	
		① ・ホームページの充実や志賀高だより等の配付物を定期的に発信し、情報発信の強化を図る。	本校の教育活動を理解している保護者は88%であり、更なる強化に努める。	【成果指標】 定期的に学校の様子を外部に発信する。	「ホームページや志賀高だより等の情報発信が積極的に実施され、学校の取組がよく分かり、本校の教育活動が理解できた。」と答える保護者の割合が A：90%以上である。 B：80%以上～90%未満である。 C：70%以上～80%未満である。 D：70%未満である。	C Dは具体的な改善策を検討する。	A (92%) A Bの合計92%は、統計し始めてから、最高値である。日頃から学校行事を詳細に掲載し、継続してきた結果である。今後も取り組んでいく。	
		② ・関係機関等と連携した教育活動を充実させる。	本校に入学させて良かったと思う保護者が59%である現状を踏まえ、教職員が地域と連携した交流事業等に参加し、地域・保護者から信頼される学校づくりに取り組む。	【努力指標】 地域・保護者と連携し、地域から信頼される学校づくりに積極的に取り組んでいる。	教職員が地域交流に参加し、地域に支えられている魅力ある学校づくりに、 A：積極的に取り組んでいる。 B：取り組んでいる。 C：あまり取り組んでいない。 D：取り組んでいない。	A Bの合計が90%未満の場合、改善策を検討する。	A (95%) 全学年が、志賀ロータリークラブと地域交流を行い、生徒の個性を伸ばすために積極的に参加している。	
5	教職員多忙改善 時間管理を意識し、業務分担と協力体制により、業務の効率化を図る。	① ・教職員の働き方を更に見直し、担当業務に対してタイムマネジメントを徹底し、業務の平準化に取り組む、時間外勤務の削減を図る。	本校教職員の超過勤務時間は県の平均レベルではあるものの、特定の個人の超過勤務が課題である。業務の平準化やタイムマネジメントを図りたい。	【成果指標】 担当業務に対する、見通しを持ち、タイムマネジメントを意識して、時間外勤務が45時間以内を目指す。  【努力指標】 各課・学年主任が時間管理や業務の平準化に積極的に取り組み、メンバー一人ひとりが業務に見通しを持って取り組んでいる。	タイムマネジメントを意識し、業務に見通しを持って取り組み、毎月の平均超過勤務時間が、 A：45時間以内であった。 B：50時間以内であった。 C：60時間以内であった。 D：60時間を超過した。  各課・学年主任が業務の平準化に取り組む、メンバー一人ひとりが業務に見通しを持って、 A：取り組めた。 B：まずまず取り組めた。 C：あまり取り組めなかった。 D：ほとんど取り組めなかった。	C Dは具体的な改善策を検討する。	A A B合計で95%であり、さらにAだけでも74%と、教職員のタイムマネジメントが実践されている。  A A B合計で84%である。但し昨年比でCの割合が10%増加している。新年度に伴い分掌のメンバーを大きく入れ替えたことも原因である。	